



あなたがたに平和があるように

（ヨハネによる福音書20章19-23節）

なか じま ひで ゆき
中 島 英 行

「婦人よ、なぜ泣いているのか」（13節）。週の初めの日の早朝、マグダラのマリアが主イエスの墓に行き、泣きながら墓の中を覗き込んでみると、主イエスは背後に立って声を掛けました。マリアは「振り返って」、復活の主が死に打ち勝って生きておられることを知って大喜びしました。復活の主は墓の中や暗い死の中におられません。その背後に立って死に打ち勝って生きておられます。マリアはその知らせを弟子たちに伝えました。「マリアは、イエスと一緒にいた人々が泣き悲しんでいるところへ行行って、このことを知らせた」（マルコ16:10）。

その夕方、少数の弟子たちが「集まって」いました。そこには主イエスを裏切ったユダも疑い深いトマスもおりませんが、彼ら自身も十字架につけられたイエスを見捨てて逃げ去った罪人だったのです。弟子たちはユダヤ人の殺害の手が及ぶことを「恐れて」、びくびくと家の戸に鍵をかけて集まっていました。立派な会堂をもち、大勢の人が集まる群れだけが教会ではありません。「少数の罪人の群れ」も教会なのです。ここに弟子たちの名はありません。しかし、ここから世界の教会は始まります。

復活の主はこの「少数の罪人の群れ」に入ってきて、その真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」（シャローム）と祝福されました。教会には様々な恐れや壁があります。しかし、主はその恐れや壁を超えて入り、その真ん中に立ち、「平和あれ」と祝福されます。「平和」は世が与える平和ではなく、手と脇に十字架の傷跡をもった復活の主の罪の赦しによる平和です。彼らは「主を見て喜んだ」とあります。ここに教会の真の喜び

説教	あなたがたに平和があるように	中島 英行	1
教会の課題	日本キリスト教会の宣教の担い手	千葉 保	2
新約聖書学への招待	ルカ2章49節の新しい訳	第6回	
		住谷 真	3
■	旧日本基督教会の草創期—植村正久を中心に(6)		
	イエス・キリストの事実から歴史を問う②	崔 炳一	4
目次	教会、この地とともに②⑧ 苦小牧教会		
	100年の歩みとこれから	小山 勝己	5
	6人の牧師による座談会④	編集部	6
■	こいのにあ 東京中会「第25回青年のつどい〜映画歓談笑会」報告		
		大石 周平	7
	小さな群れよ、恐れるな	山本 盾	7
	吉岡ミツエ先生 追悼文	加藤 正勝	8
	コロナ禍の中で② 復活の主と共に歩む教会	藤田 浩喜	8

があります。「あなたがたは泣いて悲嘆^{ひたん}に暮れるが、世は喜ぶ。あなたがたは悲しむが、その悲しみは喜びに変わる」（ヨハネ16:20）。

復活の主は再び「あなたがたに平和があるように」（シャローム）と祝福して、この「少数の罪人の群れ」を世に遣^{つか}わされました。宣教は主イエスが父から世に遣^{みわざ}わされて「成し遂げられた」御業^{あか}を証し、継続するためのものです。自分の力で宣教するものではありません。ただ聖霊の力によって宣教するのです。復活の主は彼らに「息を吹き込み」、聖霊を注いで世に遣^{つか}わし、「罪の赦し」の福音を宣教させたのです。「一同は聖霊に満たされ、^{なぐさ}霊が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しだした」（使徒2:4）。

「あなたがたに平和があるように」（シャローム）はここで二度語られています。復活の主は貧しい「教会の群れ」を祝福し、慰められただけではありません。彼らを祝福し、世に「派遣された」のです。教会は単に「招く」ためではなく、世に「遣^{なぐさ}わされて」おります。復活の主は各家庭や地域に遣^{なぐさ}わされた一人一人を祝福しておられます。

新型コロナウイルスが襲って来て、会堂において礼拝のできない教会が多いと聞いています。それは教会のピンチであり、またチャンスです。この機会に教会は牧師の指導のもとに、各家庭や地域に遣^{なぐさ}わされた一人一人を支えて、時を定めて一齊^{いっせい}に礼拝したいものです。各家庭や地域に遣^{なぐさ}わされた一人一人は復活の主から祝福された宣教の最先端です。彼らを放置し、見捨ててはなりません。（東京中会教師）